

特別支援学級 道徳科学習指導案

児童 4年2名, 5年1名
指導者

- 1 主題名 「正しいと思うことは自信を持って」 A [善悪の判断, 自律, 自由と責任]
教材名 全校遠足とカワセミ (東京書籍「道徳4年 新しい道徳」)より改作

2 主題について

(1) 価値について

本単元における内容項目 A「主として自分自身に関すること」の「善悪の判断, 自律, 自由と責任」は第3学年・第4学年では「正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと」, 第5学年及び第6学年では「自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること」をねらいとしている。

よいこと, 正しいことについて, 人に左右されることなく, 自ら正しいと信じるところに従って, 誠実に行動することは, 人として重要なことである。特に, 価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために, よいことと悪いことの区別ができるように指導しておくことは大切である。

この時期の児童は, 様々な学習や生活を通して, 正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。しかし, 正しいと知りつつもそのことをなかなか実行できなかつたり, 悪いことと知りながらも周囲に流されたり, 自分の弱さに負けたりしてしまうことがある。そこで, 自らの良心に従って, よいことと悪いことを区別して行動するよさに気付かせたいと考え, 本主題を設定した。

(2) 児童について

本学級で道徳の学習をしている児童は, 4年生男子2名, 5年生男子1名で, 昨年度は交流学級で道徳の学習を行っていた。交流学級の道徳の学習の際, 「意味が分からない」「(ワークシートに) 何を書けばいいかわからない。」と訴えることがあった。そこで, 今年度, さくら学級で道徳の学習をはじめたところ, 落ち着いて学習に向かい, 安心して登場人物の心情を考えながら学習できるようになってきた。しかし, 道徳に関するアンケート結果を見ると, 「道徳の学習が好きか」に対して, 「あまり好きではない」の回答であり, その理由は, 「話を聞くのが嫌」「何を言えばいいかわからない」であった。一方で, 「何でも話せる」「心情円などを使って気持ちを表せる。」「自分がない考えを聞くことができる。」など, プラスの回答も見られた。

本学級の児童は, 周りの友達の言動に過敏に反応してしまう児童が多い。しかし, 相手から嫌なことを言われても, やめてほしいことを相手に伝えることができず, そのことから逃げてしまう傾向がある。また, 周りで嫌な思いをしている友達がいることに気付いても, 関わろうとしない面も見られる。しかし, 何も感じていないわけではなく, どのように行動したらよいかかわからないでいる状況の時も見受けられる。さらに, 自分が悪いことだと思っても仲間に入れてもらえなくなるという思いから, 黙ってしまうという行動をとることもある。

そこで, 今回の授業では, 「ぼく」の心情に共感させながら, 友達との関係と正しい行為をするというこの間で葛藤しながらも, 自分で考えて行動することの大切さに気付かせたい。

(3) 指導にあたって

「気づく」段階では, 「全校遠足とカワセミ」という題から, 全校遠足について説明したり, カワセミについて紹介したりすることで教材に興味をもたせる。

「深める・つかむ」段階では, 教材文を紙芝居形式で分割提示する(①3段落まで, ②4段落)。読む前には, 登場人物について簡単に押さえ, 内容を理解しやすくし, おさむとたけしは仲よしで大切な存在であること, カワセミに興味をもっていることを押さえる。話し合いでは, リーダーから自分勝手な行動はしないように言われたことを確認してから, たけしに手を引かれた時, 2, 3歩進んだが足を止めたおさむについて, きまりと友達の約束の間で揺れる気持ちを心情円で表し, どうしてその心情円になったかをペープサートを持ちながら, 発表させたい。また, 木の陰で, 二人で黙っていた時の気持ちを考えさせる場面では, ワークシートに気持ちを書く活動を位置付けて, おさむとたけし, それぞれの思いを考えさせ, 正しい行動をとるまでにあれこれと考えた気持ちがあることを捉えさせたい。最後に,

おにごっこを楽しむ2人の様子から、正しいことを行うことよさに気付かせ、価値に迫りたい。

「見つめる」段階では、子どもたちの生活の場面を教師が役割演技をし、その演技を見て、どのように行動したらよいか子どもたちにアドバイスさせたい。そして、自分の生活を想起させ、本時の価値を児童の生活につなげていきたい。

「まとめる」段階では、「気持ちかた」から本時の価値に関わるカードを選んでおき、カルタを行うことで、学んだことをこれからの生活につないでいきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

正しいと判断したことは、自信を持って行おうとする態度を育てる。

(2) 研究仮設の具現化に向けた手立て

① 自我関与のさせ方の工夫

場面	ねらい	手立て
たけしに手を引かれた時、おさむが2、3歩進んだが足を止め「だめだよ」と言った場面。	心情円を動かし、きまりと友達の約束の間で揺れるおさむの気持ちを考えることで自分事として捉えさせる。	心情円 ペープサート

② 多面的多角的に考えさせる場のあり方

場	ねらい	手立て
木の陰で、二人で黙っていた場面での二人の気持ちを考えさせる場。	なぜ二人が黙っているのか、おさむとたけし、それぞれの思いを考えさせることで、いろいろな気持ちがあることを捉えさせたい。	ワークシート

③ 振り返りの工夫

発問	ねらい	手立て
チャイムが鳴った時、遊びを続けたいという人に、あなたはどちらがいいとアドバイスしますか。	役割演技を見て、アドバイスをすることで、善悪の判断をし、正しい行動ができるようにさせていく。	アドバイス

(3) 個人のねらい

	本時に関わる実態	個人のねらい	支援の手立て
A	正しい判断ができることが多いが、友達に誘われると断れないこともある。判断基準が「怒られる」かどうかになってしまうことがある。	自分の中によい悪いの判断基準をもつことが大切であることに気付かせる。	切り返し発問をしたり、友達の発言を聞いたりすることで、自分の中で善悪の判断をすることの大切さに気付かせる。
B	落ち着いているときは正しい判断ができる。感情的になると、自己中心的な判断をし、周りにそれを強要することがある。	正しい判断をするために、みんなのことも考える必要があることに気付かせる。	おさむがなぜ「やっぱりやめる」と言った場面で、なぜそういったのかについて、発問や板書から考えさせる。
C	周りの誘いに乗って正しい判断ができないときもある。注意されると、人のせいになることがある。	人に左右されず、自分の中によい悪いの判断基準を持ち行動することが、自分やみんなのためになることに気付かせる。	おさむの葛藤に共感させながら、友達に引きずられることなく行動したことで、おさむもたけしもすっきりした気持ちになったことに、発問や板書から気付かせる。

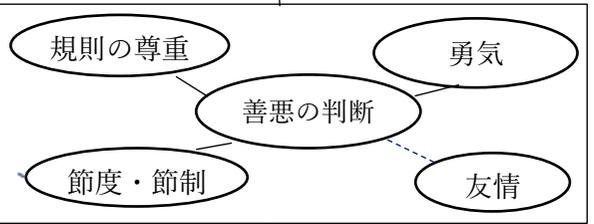
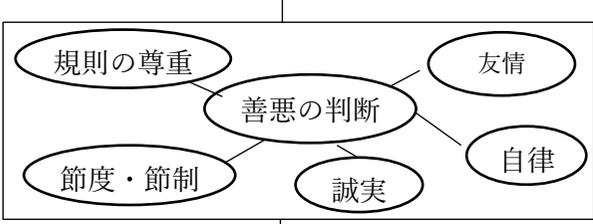
(4) 展開

		学習内容と 主な発問	予想される児童の反応指導上の留意点（支援□）			指導上の留意点 （評価★）
			A	B	C	
導 入	気 づ く 5 分	1 今日のお話に関心をもつ。 ○「全校遠足」「カワセミ」って知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「全校遠足」はみんなで行くのかな。 ・佐倉河小学校は学年だよ。 ・全校の遠足じゃないかな。 ・カワセミは、川にいるセミかな。 ・カワセミは川にいる鳥だよ。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「全校遠足」や「カワセミ」について説明し、教材文につなげる。
展 開 前 段	深 め る つ か む 25 分	2 「全校遠足とカワセミ」の話を聞き、話し合う。 (1)たけしに誘われた時のおさむの気持ちを考える。 ○ おさむは、どんな気持ちで「やっぱりだめだよ」と言ったのでしょうか。 (2)木の陰に隠れているときの二人の気持ちを考える。 ○ 木の陰で、二人で黙っていた時、おさむはどんな気持ちだったでしょう。 ○たけしはどんな気持ちだったでしょう。	<input type="checkbox"/> 紙芝居を読む。 <input type="checkbox"/> 誘った人、誘われた人を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・見に行ったら、怒られる。 □きまりを守ることと見たいという気持ちを捉えさせる。 ・たけしが怒っているから、ちょっとカワセミを見に行こうかな、と思っている。 ・たけしは、おさむが何で行かないと言ったのかな、と思っている。 □書けないときには、話を聞き、ボードに書いて提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーに「勝手な行動をしないでください」と言われたから。 □みんなに迷惑をかけることにも気付かせる。 ・おさむは、やっぱりいけないことだから、みんなのところに行こうと考えている。 ・たけしは、行くって言ったのに、おさむが行かないと言ったから怒っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見に行きたいけど、先生やリーダーに怒られるから。 ・おさむは、たけしが怒っているから、やっぱり行こうかな、と困っている。 ・行く約束をしていたのに行かないなんて、何でだよ、と思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を紹介し、二人の気持ちを考えながら聞かせる。 ・3段落まで話を示す。（分割提示①） ・心情円で「行きたい気持ち」と「行ってはだめだという気持ち」を表し、どうしてそのような心情円になったかを発表する。 [手立て1] ・心情円で気持ちを表させ、なぜ変わったかその理由を考えさせる。 ・黙っているときの二人の気持ちを吹き出しに書かせる。 ・表情からも考えさせる。 ・2種類のワークシートを用意する。 [ワークシート]

		<p>3 話の続きを知り、行くことをやめた、二人の気持ちを考え、価値に気付く。</p> <p>◎木の陰から出て、楽しくおにごっこを続けられたのは、なぜでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悪いことをしないでよかったと思ったから。 □おさむだけではなく、たけしも、正しい行動をしたことをとらえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たけしは、おさむが「やめる」と言ってくれたから、勝手なことをしないで済んでよかったと思っている。 ・おさむは、たけしが、自分の言ったことをわかってくれたからうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たけしは、悪いことをしないでよかった、と思っている。 ・おさむは、たけしが怒っていないことが分かったから安心した。 □おさむの気持ちもすっきりしたことをとらえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の続きを示す。(分割提示②) ・たけしの心情の変化も考えさせることで、価値に迫っていく。 ・二人の思いを整理する。 ・正しい行動をすると、みんなが楽しく遊ぶことができるということに気付かせる。
展開後段	<p>みつめる 10分</p>	<p>4 自分がどう行動したらよいか考える。</p> <p>○チャイムが鳴った時、遊びを続けている人に、あなたはどうかアドバイスしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が来なくても、チャイムが鳴ったから遊びをやめないとだめだよ。 ★正しいと判断したことを行うことの大切さについて考えているか。(発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムが鳴ったら片づけて、勉強の準備をして席に座らなきゃだめだよ。 ★正しいと判断したことに自信をもって行うことのよさについて考えている。(発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に誘われても、きまりは守らないとだめだよ。 □自分で善悪の判断をすることの大切さに気付くようにする。 ★自分の中に善悪の判断基準をもつことの大切さを考えている。(発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の役割演技を見て、どう行動したらよいかアドバイスさせる。 ・教師の役割演技では、児童が、正しい行動について考えられるように、感情を込めて行うようにする。
終末	<p>まとめる 5分</p>	<p>5 「気持ちかると」をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードをめくり、書いてある質問を音読し、自分の思いや考えを読む。 			<ul style="list-style-type: none"> ・本時の価値に関わるカードを選び、取り組ませる。 ・学んだことをこれからの生活につなぐための意識づけを行う。

〈教材分析図〉

- 1 教材名 全校遠足とカワセミ
- 2 ねらい 正しいと判断したことは、自信を持って行おうとする態度を育てる。

主な場面	たけしに手を引かれた時、おさむが2, 3歩進んだが足を止め「だめだよ」と言った場面。	おにごっこが始まり、二人で大きな木の陰に隠れ、目を合わせず長いこと黙っていた場面。	たけしが「やっぱりやめるか」と言い、木の陰から飛び出し、風を気持ちよく感じながら二人が走っている場面。
心の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・見たいけど、リーダーに言われたからだめだ ・先生やリーダーにおこられる。 ・たけしがせっかく誘ってくれたのに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり、だめなことやだめだ。 ・たけしを怒らせた。 ・もう、仲良くしてもらえないかも。 ・わかってほしいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たけしがわかってくれた。 ・先生に怒られなくてよかった。 ・正しいことをすると気持ちがいい。
価値の関連			
気付けさせたいこと	見たい気持ち、たけしが誘ってくれているということ、先生やリーダーから注意されていることのため、おさむの心が揺れていること。	たけしに嫌われたかもしれない。もう仲良くしてもらえないかもしれないという不安と、正しいことをしようと言う思いで揺れるおさむの気持ち。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいと判断して行動した気持ちよさ。 ・自分の行動がたけしにも伝わった喜び。 ・たけしもおさむに言われて思いとどまった気持ち。
主な発問	おさむは、どんな気持ちで「やっぱりだめだよ」と言ったのでしょうか	目も合わせず、長いこと黙ったままのとき、おさむとたけしはどんな気持ちだったのでしょうか。	木の陰から出て、楽しくおにごっこが続けられたのは、なぜでしょうか。